

先週の礼拝メッセージ(2021年10月3日) ベン牧師

「神の聖なるご計画」 エフェソの信徒への手紙 3:2-6

今日は、3節の「秘められた計画」という言葉に注目したいと思います。別の訳では「奥義」(おくぎ)と訳しています。

奥義とは、神様が、イエスキリストを通して示してくださらなければ誰もわからないものでした。だからこそ、「秘められた計画」と言っているのです。

パウロはここで、その計画が自分に示され、自分はこの福音に仕える者となったと告白しています。

それまでクリスチャンを迫害していた彼が、光に照らされ、イエス様によって、異邦人に福音を伝えるよう命じられたのです。2章でも話しましたが、私たち異邦人には、元来、神の約束も天の御国の希望もありませんでした。しかし、イエス様の十字架によって、罪が赦され、ユダヤ人と異邦人の隔ての壁は壊され、両者は一つとされたのです。(2:16)

イエス様が来られる前は、救いはユダヤ人のものでした。パウロが活躍した時代も、まだまだそういう考えや習慣が根深く残っていたのです。しかし聖書ははっきりと、イエス様の十字架によって、ユダヤ人も異邦人もない、国や民族、性別や貧富など、一切関係なく、イエス様を信じる者は誰でも救われると宣言しています。

まさにこれが、神の聖なるご計画なのです。そのご計画が実現し、救いがすべての人に与えられるために、神様はひとり子イエス様をこの世に送ってくださったのです。

パウロはこの真理を知っていたからこそ、どんな困難や迫害があってもイエス様の救いを伝え、自らが牢に繋がれていても福音を伝え続けたのです。

私たちはどうでしょうか。旭市や近隣の市や町の人々のほとんどは、この救いを知りません。私たちの周りの人々に、十字架の救いを、イエス様の愛を知ってほしいと心から願います。

この思いの原動力はなんでしょう。まさに、私自身が救いの恵みを受け、神の愛を経験し、人生が変えられたからこそ、私の愛する人々にも、この救いを受け取ってほしいというものではないでしょうか。

神のご計画は、私たちの祈りを通して進められていくのです。私たちが伝えることで、進められていくのです。神様は全能ですから、直接事をなさろうと思えば、いとも簡単になんでもすることができます。しかしあえて、人間をお使いになり、福音を伝えさせ、神の愛を行なわせます。

そうです。神様は旭キリスト教会の私たちを用いて、この地域に福音を満たそうと御計画をしておられるのです。100年以上の歴史を持つ旭教会です。ここまで多くの祈りが積み重ね、宣教されてきているのです。神の祝福に満ちた教会なのです。神のご計画は必ず実現します。

それは何も、肩を張って、伝えなければいけないという、義務感からのものではありません。私たちは小さく弱くても、日々の生活の中で、祈りつつ主に委ね、感謝をささげ、主を喜んでいる姿は、大きな証であり、それこそが伝道なのです。なぜなら、その喜びや感謝は、神から来ているから、人々は私たちを通して、神様の光を見ることになるからです。

神のご計画は、私たちを通して前進していくのだということを中心に留めましょう。そのために十字架にかかってくださったイエス様を仰ぎ見つつ、「私を用いてください」と主の前に出ていくお互いとなろうではありませんか。

